

「市民ワークショップ」の開催結果について

開催日：第1回 平成23年7月10日(日)

第2回 平成23年7月17日(日)

開催会場：大船渡市役所

参加者数：第1回 市民28人、(協力)岩手県立大学：ファシリテーター等9人、学生9人

第2回 市民21人、(協力)岩手県立大学：ファシリテーター等10人、学生7人

内 容

ワークショップ形式により、「復興によって目指すべき大船渡市の姿」を検討した。

結果概要

下記(大船渡市復興計画(案)抜粋)のとおり、「復興によって目指すべき大船渡市の姿」を取りまとめた。(別紙ワークショップグループごとの結果概要参照)

大船渡市復興計画(案)抜粋

6 復興後の大船渡市の姿

復興によって目指すべき大船渡市の姿を次のとおりとします。

これは、高校生からお年寄りまで、さまざまな世代の市民が参加した市民ワークショップでの議論をもとに導き出したものです。

大災害を乗り越え、よりよいまちとして再生するために目指すべきまちの姿

「命を守り、夢を育むまちづくりと防災に協働するまち大船渡」

市民ワークショップでの提言などをまとめると、次のようになります。

だれもが安心して暮らせるまち

被災者の生活再建を最優先として、一日も早く市民生活の安定を取り戻すためには、災害にくじけない市民の思いを糧としながら、次のことに取り組みなければなりません。

ア 早期の住宅再建と公営住宅の整備

イ 今回の災害の教訓を生かした防災体制の見直し(防災施設に頼りすぎない防災対策の推進や防災教育の充実など)

ウ 高齢者や障がい者にやさしいまちづくり(バリアフリーのまちづくりの推進や公共交通システムの整備など)

エ 将来を担う子どもたちの教育の充実

活気あふれるまち

大船渡市が活気を取り戻すためには、地域の特色と資源(人的・物的)を最大限に生かした産業の再生と創出が大切です。

ア 被災した産業基盤の早期再建

イ 豊かな自然の恵みなどを生かした産業振興(農林水産業・地場産業・観光産業の振興や産業間の連携推進など)

ウ 魅力的・独創的なまちづくり

エ 新たな産業の創出と雇用の確保

オ 環境共生型のまちづくり(自然エネルギーの活用など)

支え合いの“わ”でつなぐまち

私たち大船渡市民は、多くの皆様からご支援をいただきながら、ともに助け合い、励ましあいながら災害発生後の日々を過ごしてきました。

この間、人と人をつなぐ「和」と、まちや集落をつなぐ「輪」に支えられたところであり、今後においても、二つの“わ”を大切にしながらまちづくりを進めます。

ア 市民をつなぐ コミュニティーの確保や防災ネットワークの形成など

イ 集落をつなぐ 集落の孤立を防ぐ道路ネットワークの形成や循環バスの運行など

ウ 世代をつなぐ 子どもからお年寄りまで、幅広い世代・階層の意見を取り入れたまちづくりの推進や文化・伝統の保存・継承など

エ 都市をつなぐ 気仙2市1町の連携強化など